

ネットワークボード

映画「^{はる}杳かなる」上映会&トークショーをご紹介します。「私の声を奪うな 私をいなかったことにするな」という言葉が添えられたこの映画は、ALS（筋萎縮性側索硬化症）の当事者を追ったドキュメンタリーです。ALSは未だ治療法の見つかっていない難病で、病状の進行によっては声も失われ、意思の疎通も難しくなっていく病として徐々に知られつつありますが、この映画はその当事者の皆さんの悩みや葛藤、そして別れや出会いを通して、「生きるとは」という人としての原点を問いかける作品です。監督は、重度訪問介護を取り上げた「道草」でも有名な宍戸大裕（ししど・だいすけ）さん。昭和音楽大学で開かれる上映会では、宍戸さんを招いてのトークショーも予定されています。（編集部）



日時：2026年2月15日（日）12：30-（11：30 開場）

会場：昭和音楽大学南校舎 C511 教室

（小田急線新百合ヶ丘駅徒歩4分）

料金：1,000 円 定員 120 名

申込：右のQRコードからお申込みください。

問い合わせ：voice.inclusive2025@gmail.com



編集後記



このつうしん THE 現場メインの報告にもありますが劇団レインボーが5周年を迎え11月と12月に2回公演がありました。今回は音楽劇ということで、それぞれの登場シーンで各々の好きな音楽が流れて歌ったり踊ったりしている場面が印象的でした。また新しいメンバーが増えて魅力が倍増していて、立ち上げ当初からいるメンバーはもうすっかり役者として舞台上に立っている様子に感銘を受けました。そして、最後に出演者全員で歌うビリーブには勇気をもらい、緊張しながらも一生懸命歌っている姿を見て思わず涙してしまいました。あるメンバーにとっては劇団レインボーと出会えて自分が活躍できる居場所を見つけられたのではないかなと感じ、観客として伺った私は安心したと同時にとても嬉しい気持ちになりました。本番を見て改めてたまり場ばれっとの魅力を感じ、私もばれっとに出会えて良かったなと思える時間を過ごしました。

話は変わりますが、先日 NHK のハートネット TV で知的障害者の暮らしの場についての特集がありました。51 歳の障がいがある息子さんと一緒に暮らしている 85 歳と 89 歳のご両親がインタビューを受けていました。何度も同じことを話す息子さんに対してお母さまはコミュニケーションを取りたがってそれを楽しんでいるのだと思うと話していて、息子がいるから生かされているとおっしゃっていました。福祉用語解説にもあるように、老障介護の問題は根深く単に新しい住まいを見つけて移行すればいいのではなく、家族との関わり方を考えることの重要性を改めて知りました。（たけい）